

## 実践報告

# 現職保育者の質的向上に向けての研修会の充実

Improvement of training sessions for qualitative improvements of incumbent caregivers

中 井 清津子

キーワード 保育者の質、研修、ワークショップ

## I. はじめに

今、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領の改訂に伴い、教育・保育の直接の担い手である保育者の質の向上が求められている。子ども・子育て支援新制度の導入と共に、保育の量が課題とされてきた時代から、少しずつ保育の質が問われ、保育者の質の向上に向けて各所属機関や団体及び研修機関において、研修会の充実が求められるようになってきている。

また、園には、子どもを取り巻く急速な社会の変化から、多様な保護者の期待やニーズが寄せられている。そのため、保育者は複眼的・総合的な視点から多様な課題に対して常に広い視野をもって取り組まなければならない。しかし、保育時間の延長や保育者不足という現実から、研修会に参加する時間の確保ができにくいという声も聞かれる。

そこで、このような今日的な課題を捉えながら、現職保育者を対象とした研修会が、専門職としての資質や能力を磨き、キャリア形成につながる内容や方法となるよう工夫しなければなら

ないと考え、研修会の充実に向けての取り組みについて報告する。

## II. 方 法

平成 29 年 1 月から平成 29 年 12 月までに筆者がかかわった研修会は 19 回で、主な内容は次のとおりで特徴的なものを紹介する。

- ・講演会（7 回）
- ・公開保育・協議会・講演（7 回）
- ・講演・分科会・助言（1 回）
- ・DVD 視聴・協議会（2 回）
- ・造形遊び実技研修（1 回）
- ・作品鑑賞・講義（1 回）

○公開保育を中心とする。（9 月 B 県）

この研究会では、「主体的、対話的、深い学び」について研修することを目的としている。子どもの姿から「主体的・対話的・深い学び」の姿と保育者の関わり方を記録し、その記録からグループ別ワークショップをする。その内容も取り込みながら、最後に「保育の質を考える～主体的・対話的深い学びとは～」と題して講演をする。

## ○DVD を視聴する。(9月 C 市)

この研修会は、協同性を育てる保育について学ぶことを目的としている。DVD を視聴しながら、協同的な活動をしている子どもの姿や、協同性を育てる教師の役割について参加者が記録をする。記録に基づき、グループ別に協議をしながら分析・考察する。その内容も含め最後に「協同性を育てる保育者の役割について」と題して講演をする。

## ○作品研究と講義(12月 D 市)

この研修会は、子どもの絵の見方を学ぶことを目的としている。具体的な作品を見ながら、参加者が全員で作品について自分の感想を語り、作品の見方や子どもの表現の読み取りについて研修をする。その後「幼児の絵を描く遊びとは」と題して講義をする。



作品研究会

## ○実技研修(7月 E 市)

この研修会は、心を育てる造形表現の重要性について実技を通して学ぶことを目的としている。粘土・パス・絵の具遊び・版画・紙・作る遊びなどの技法や実際の活用方法などを学ぶ。

19回の研修会すべてにおいて主催者と連携しながら進められなかった。主な理由として検討するのに必要な時間が取れなかったこと・主催者の目的が明確でなかったこと・参加人数との関係で十分な会場が確保できず講演のみにならざるを得なかったことなどが挙げられる。19

回の研修会のなかで10回は主催者と連携しながら検討することができた。その中でも、主催者との連携が充分とれ、参加者が主体的に参加できるような工夫もできたと感じた事例から、一事例を抽出し計画から実施、評価反省等の流れの中で、次の観点から検討を加える。

- 1 研修会目的の理解
- 2 主催者の期待内容(期待度)
- 3 主催者と講師の内容に対する具体的な検討
- 4 研修会の実施
- 5 主催者及び講師の反省等

主催者によるアンケート調査を実施した。特に倫理的配慮から、回答は自由であり、個人を特定しない内容で、次年度の研修会の内容に反映していくことを主催者が口頭で伝え、回答をもって同意を得たものとすることを確認した。

### Ⅲ. 実践紹介

#### ●事例(A市 7月 参加者200名)

##### 1 研修会目的の理解

幼児教育の課題を把握し、保育者としての専門性を高めることを目的とする。

研修会名 幼児教育ゼミナール

対象者 幼稚園教諭・保育所保育士・小学校教諭

テーマ 保育の質の向上を求めて

内容 講演・分科会 助言

分科会テーマ(A市教育委員会主催)

第1(明日の保育につながる環境援助を考えよう)

第2(3歳児の発達について)

第3(幼小の接続を考える)

第4(心と体の成長)

第5(集団の中で育ちあう特別支援教育)

※分科会については各自希望により選択する

##### ○第1分科会の目的(筆者講師)

比較的若年層の保育者が多い分科会であり、

今日から明日の保育をどのように考えて組み立てるのか等、自分で保育を構想する力が弱いため、環境や援助を通して明日につながる保育を考える力を養う。

## 2 第1分科会における主催者の期待内容

今日の子どもの姿から発達の姿を読み取り、明日の環境や援助等保育につなげる力を養う。指導計画の作成に必要な力（発達理解・ねらいと内容、環境・援助）を育てたい。

## 3 主催者と講師の内容に対する具体的な検討

本市における保育の考え方や課題などを主催者が説明しその結果、明日の指導計画作成のために今日の保育の理解が難しい点が明らかになった。具体的に、いろいろな角度から保育や子どもの姿を語り合い、自分の課題として捉える研修会になるようにしたいと確認し合い次のことを話し合った。

- ・ワークショップ研修にする方が、自分の考えを出しやすいのではないか。
- ・経験年数10年ぐらいの保育者の保育記録を提供してもらい、その保育実践を読み解くことで、客観的に保育を反省できるのではないか。
- ・経験年数が偏らないように配慮した6人のグループ編成が話し易いだろう。

## 4 研修会の実施

- ① A 幼稚園 B 教諭の研究保育記録から、ねらいや内容と子どもの姿、教師の願いなどを書いた記録を提案する。
- ② 同じ保育日の子どもの遊びの場面から記録を読み取りワークシートに書く。
  - ・グループ別でのワークショップ
  - ・配布物の確認

各自の配布物・・・提案資料としての指導案と研究保育記録

グループの配布物・・・模造紙・マジック・ツールとしての付箋3色

- ③ 自己紹介（自分の得意なことを紹介するなど自由な雰囲気でする）
- ④ ファシリテーターと発表者を1名選出
- ⑤ 保育記録を各自が読み、子どもの姿から発達に関する内容を黄色の付箋に、教師の関わりで環境に関する内容をピンク色の付箋に、援助に関する内容を水色の付箋に書く。
- ⑥ 模造紙に発達理解・環境・援助に分類し貼り付け、同じ内容はKJ法により整理する。
- ⑦ 子どもの発達や気持ち理解に基づいて、教師の関わり行動（環境や援助）を関連付けて各グループがそれぞれの事例について協議する。
- ⑧ 事例分析したことから、「自分なら明日の保育をどのようにするか」を考え、協議し、模造紙に書き込む。
- ⑨ 模造紙をボードに貼る。
- ⑩ グループごとに「本日の子どもの姿の理解と、明日の保育をこのように考え環境を準備し、援助をする」など明日の保育への組み立て方（具体的な指導計画の考え方）について具体的に発表する。
- ⑪ 各グループの発表について質疑応答の時間をとる。
- ⑫ 講義（筆者）  
テーマ  
「明日の保育につながる環境・援助を考えよう～今日から明日の保育～」  
助言の概要  
・カリキュラムマネジメント・記録の取

り方・記録の分析・環境、援助の考え方・子どもの視座に立つ保育者

ワークシート 表1

遊び場面の状況	
事例 _____	環境の写真 ツール（付箋） 読み取り ↓ 理解 ↓ 明日の保育へ
考 察	

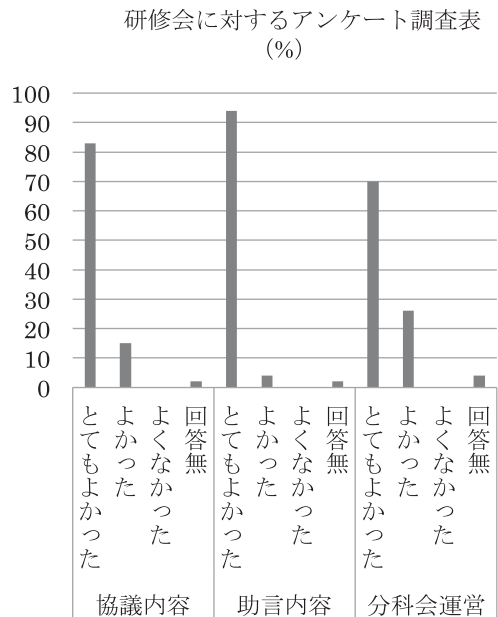


5 主催者及び講師の反省等

「協議内容」「助言内容」「分科会運営」の3項目について、「とてもよかった」「よかった」が全体を占めている。この結果から研修の方法としてのワークショップや協議が活発になるように保育記録の提供などが具体的で考えやすかったと言える。運営については、分科会としての全体運営であり、場所や人数、時間の取り方

も参加者の様子を見ながら臨機応変に運営されていたことが評価されたのではないかと考えられる。助言内容については、各グループの発表を受けながら、経験年数の少ない保育者の悩みなどに触れながら、示唆を与えたことが分かりやすかったのではないと思われる。

(1) アンケート調査の結果 表2



「分科会についてのご意見ご感想をご記入ください」という回答を自由記述により求めた。まず、記述された内容を端的に表す短い文にしてカードに記入した。複数の内容が記述されている場合は複数について同様にした。46人分のデータについてカードに記入をした後、内容が類似していると思われるカードを KJ 法によりまとめた結果次のようになった

事例によるワークショップ

- ・様々な人の意見が聞いて良かった (13)
- ・意見交換し保育を考えることが楽しい (3)

- ・ファシリテーターの役割は大きい (1)
- ・グループの皆で明日の遊びが考えられた (2)
- ・一つの保育を深く考えられる時間になった (1)
- ・事例からいろいろな見方ができ、じっくり考えられ事例を読み取る面白さを感じた (5)
- ・事例を通しての環境や援助について語り合い、共有できた (2)
- ・ワークショップは同じ保育を同じ視点から捉えることができ、参加者が当事者意識を持って考えられる (3)
- ・ポスター発表で同じ事例でも違う考え方が見られ、多様な考え方が学べた (1)
- ・分科会のねらいを知っていた方がよかった (1)
- ・ワークショップを園内研修でも活用したい (1)

#### 自分を振り返る

- ・自分の保育を振り返ることができた (8)
- ・自分のクラスの子どもについて、どんな子どもに育てたいか考え直すことができた (1)

#### こんな先生になりたい

- ・子どもの目線に立って子どもの理解ができる保育者になりたい (2)
- ・保育を見取る力を付けたい (5)
- ・記録をしっかりとりたい (1)
- ・自分自身を磨きたい (1)
- ・保育のことを楽しく語れる先生になりたい (3)

#### (2) アンケートの考察

主催者と筆者によりアンケートを考察した結果次のようなことが考えられた。

#### 【ワークショップ研修について】

- ・グループワークで、積極的に参加するためには、協議のポイントや事例などが具体的に示されることで共有化しやすい。
- ・事例を読み解く楽しさを感じるようになるためには、深く考える時間や仲間の存在が必要である。
- ・ワークショップ研修は、自分自身の課題と関連させながら考えることができるため充足感がある。

#### 【振り返りから新たな意欲へ】

- ・アンケート調査から、保育者が自分を振り返り更に、「こんな先生になりたい」という希望や夢をもっていることが伺える。仲間の存在によって、互いに励まされたり、共感したりしながら次の意欲を生み出すことができるのであろうと考える。

## IV ま と め

### 1 主催者と講師の連携・協働

主催者と講師との連携が行われることにより、研修の目的に至る背景を共通理解しながら、効果的な研修内容や方法を協働的に考えることができた。

### 2 保育者の課題意識を高める研修会の工夫

公開保育や DVD 等の視聴や事例研究など保育の場を仲間と一緒に見たり、語り合ったりすることで、子どもの発達や保育者の関わりについて、イメージが共有化されやすくなった。保育者自身が多面的な物の見方や考え方に触れ、自分自身の考えを広げていくワークショップ研修は、参加者が同じ視点から理解し合い、語り合い自らの実践を振り返ることができた。保育者が自ら変容する気持ちが高まるような研修会の持ち方の工夫が必要であると思われた。

### 3 養成校として学び続ける学生を育てる

養成校として、保育者を目指す学生たちが生涯にわたり学び続ける保育者になるための基礎として、何が必要なのか考えると 学びに向かう力や仲間と協働的に物事に向き合う力・仲間の一人として自覚と責任をもって行動する力などが挙げられる。これらの力が身につくようなアクティブ・ラーニング型授業の実施を中心に

学修方法の工夫を今後も続け、「学び続ける教員・保育者」の養成をめざしたい。

**参考文献**

- ・「幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示）」文部科学省
- ・「これからの学校教育を担う教員の資質向上について～学び合い、高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（平成 27 年 12 月答申）」文部科学省中央教育審議会